

### 感染症・予防接種レター (第59号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会

委員長 多屋 馨子	副委員長 岡田 賢司	乾 幸治	三田村敬子
菅原 美絵	津川 毅	古賀 伸子	

## おたふくかぜの流行とワクチン接種

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、国内において毎年地域的な流行がみられている。1994年以降から3～4年周期で患者増加がみられるようになり、2015年から今年にかけて患者数の増加がみられる（図1）。発症年齢は、例年7歳までが全体の80%を占めている（図2）。

流行性耳下腺炎は、パラミクソウイルス科に属する

ムンプスウイルスによる感染で、ヒトのみを宿主とする。

感染経路は、飛沫感染で伝播し、鼻咽頭粘膜や所属リンパ節で増殖後、ウイルス血症を介して各臓器（唾液腺、中枢神経、内耳、精巣など）に播種され症状が出現する。

主な症状は、単独あるいは複数の唾液腺（多くの場合は耳下腺）腫脹が特徴で発熱を伴う。耳下腺腫脹は発症後1～3日がピークで、その後3～7日かけて消退する。発熱に続き頭痛や倦怠感、食欲低下、筋肉痛、頸部痛を認めることもある。また感染しても症状を呈さない不顕性感染者となっていることもある。

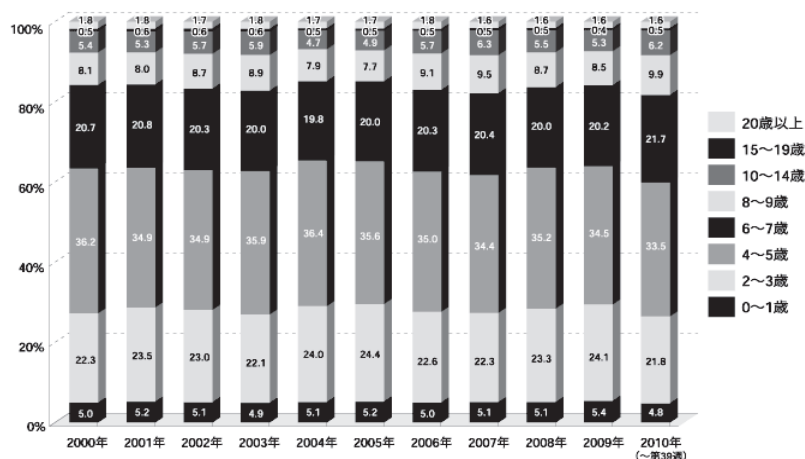
流行性耳下腺炎の潜伏期間は通常16～18日だが、ウイルスに曝露された後12～25日での発症報告もあるため長い期間観察が必要となる。

発症中の感染対策は、耳下腺腫脹後5日目までは標準予防策に加えて飛沫予防策が推奨されている。しかしウイルスは耳下腺腫脹の7日前から8日後まで唾液から分離されるので注意が必要となる。



国立感染症研究所：流行性耳下腺炎2016年8月現在 (IASR 微生物検出情報) より引用

図1 流行性耳下腺炎の定点あたりの報告数の推移 (2002年第1週～2016年第31週)



国立感染症研究所, 厚生労働省健康局結核感染症課：流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)2010年9月より引用 <http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2010d/img39/chumoku04.gif>

図2 流行性耳下腺炎の年別・年齢群別割合 (2000～2010年第39週)

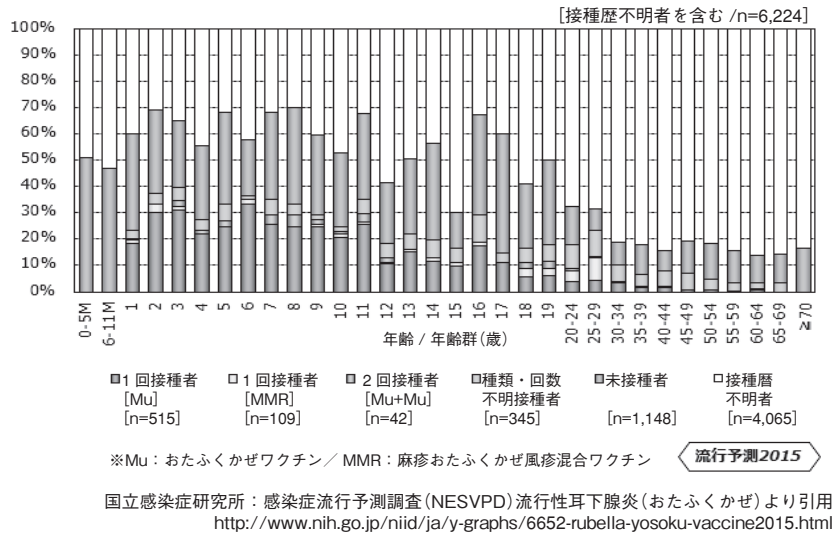


図3 年齢 / 年齢群別のおたふくかぜワクチン接種状況, 2015年

学校保健安全法では第2種感染症に指定され、出席停止期間が設けられており、耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席停止となっている。ただし、病状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めた時は、この限りではないと決められている。

流行性耳下腺炎は合併症として、髄膜炎、難聴、精巣炎・卵巣炎、膵炎などがあり、髄液細胞数増多は50%以上の症例で認められるが、髄膜炎症状を呈するのは全体の10%以下である。これまで、顕性感染者の1/1.5万人に難聴を発症するとされているが、日本国内耳鼻科医らからの報告によると1/1千人で難聴を認めるため、罹患後の症状の有無についても注意深く観察することが必要である。ムンプス難聴は、耳下腺や顎下腺腫脹前4日から腫脹後18日までに発症する急性高度難聴である。多くは片側性であるが、時には両側重度難聴を来すこともある。片側性であることから、小児の場合は日常生活に大きな支障がないことで見逃される要因になる。回復した後、呼ぶ声に対する反応が遅くなった、片側から呼ぶと反応しない、テレビや音に対していつも同じ方向から聞いているなど

罹患前と違う様子がみられた時には、耳鼻科を受診することが必要である。

流行性耳下腺炎対策の基本は、弱毒生ワクチンの接種により予防できる。日本で用いられているワクチンを1回接種した場合の発症予防効果は最大90%という報告もあるが、効果を確実なものとするためには2回接種が必要である。先進諸国では1歳と4～6歳の2回接種を行うことが多い。2016年4月現在、わが国では任意接種の対象となっており、ワクチン接種率が低く(図3)、今後も流行が繰り返すことが予測される。

#### 参考文献

- 1) American Academy of Pediatrics. Mumps. Red Book 30th ed, 2015 : 564-568.
- 2) 庵原俊昭. ムンプスワクチン：現状と今後. 臨床とウイルス 2010 ; 38 : 386-392.
- 3) Hashimoto H, et al. An Office-Based Prospective Study of Deafness in Mumps. Pediatr Infect Dis J 2009 ; 28 : 173-175.
- 4) 国立感染症研究所. おたふくワクチンに関するファクトシート (平成22年7月7日版). 2010.